

日本共産党 木佐木 大助の 山口県議会通信

2024-4/23
No.561



集会では来賓紹介された…
日本共産党の井上参院議員や大平元衆院議員、河村県議。社会民主党呉支部の宮丸・副部長に大きな拍手が寄せられました。

力強い…女性5人の連帯挨拶も

連帯の挨拶は…●戦中の相次ぐ呉空襲を紙芝居「ふうちゃんの青い空」で伝える中峠房江さん、●S25年制定「旧軍港市転換法」当時を知る斉藤久仁子さん、●紙芝居「安浦のコンクリート船」作者の桐山千歳さん、●米軍岩国基地を監視する廿日市の菊間みどりさん、●一早く闘いを広げている新婦人広島県本部会長の村上厚子さんなど、いずれも女性5人の方々が、熱い連帯の挨拶を行いました。

呉市の斉藤久仁子さん(92)が…
「軍転法成立の際、高校生だった私は賛成に投票したうちの一人です。平和の日本・呉になると希望を託して投票しました。しかし、防衛拠点とは『戦争する目的』それ以外の何物でもありません」との訴えを聞きながら、丁度この直後に海上保安大学校化学教官として赴任してきた木佐木の亡父に、思いを馳せました。

パレード…井上さんも大平さんも

集会宣言採択後…
「仁義なき闘いや「孤狼の血」でもお馴染みの、中通り商店街を歩いて呉駅までパレード。暴走する大軍拡を許さず、平和を守る決意を込めたシュプレの拳を上げました。



井上参院議員も大平元衆院議員も、このパレードに参加しました。



《海自呉基地…当然米軍も使用しています》

県議会報告 X 日鉄呉跡地を考える市民集会

4月21日、木佐木の故郷・呉で…
岸田政権による「戦争国家」づくりが、問答無用・急ピッチで進む、大軍拡の象徴・最前線となった「軍都・呉復活」に待ったをかける、「日鉄呉跡地問題を考える市民県民集会」が呉中央公園で開催され、日本共産党の井上参院議員や大平元衆院議員も駆け付けました。
木佐木も呉の旧友と共に、小雨振る中400人が集まった集会・パレードに参加しました。



冒頭、主催者挨拶に立った西岡・共同代表は…昭和二十年終戦目前に14回もの空襲被害を受けた軍都・呉市で、戦後行われた住民投票で、市民の95・8%の賛成を得て成立した「軍転法(旧軍港市転換法)」を「今後の活動の礎にし、平和の準備をともに続けていこう」と訴えました。

「軍転法」礎に…
平和の準備を今こそ

事の発端は…
防衛省が、広島県呉市の日本製鉄(日鉄)瀬戸内製鉄所呉地区跡地を一括購入し「多機能な複合防衛拠点」にするとの整備案。これを受けて…
四月七日に発足した「日鉄呉跡地問題を考える会」(共同代表：森芳郎・西岡由紀夫の両氏)が、緊急集会を呼びかけたものです。異常な岸田政権の暴走と呉市長の対応ぶりは、「集会宣言」に詳細に明記。参考にして下さい。

大軍拡の最前線…「軍都・呉」の復活を許すな

4・21…集会宣言

4月11日、木原稔防衛相は、沖縄県うるま市のゴルフ場跡地への陸上自衛隊訓練場の新設断念を表明しました。

国が地元の意向を聞くことなく、計画を強権的に進めたことで、住民の怒りに火をつけ、「保守も革新もこぞって白紙撤回を求める地域ぐるみの大闘争」となったのです。

翻って日鉄呉跡地はどうでしょうか。3月4日、防衛省が呉市と広島県を訪問し、跡地の一括購入と「多機能な複合防衛拠点」整備を表明。11日には呉市議会に向け説明会を実施しました。この時、新原呉市長は「防衛省の話を丁寧に聞いていく」と述べるにとどまりました。

しかしその後、市民による情報公開請求で、驚くべき事実が明らかになりました。昨年8月と11月に、旧軍港市の4名の市長と、同じく4名の市議会議員らは、防衛省に「防衛生産基盤強化」の要請に出向いていたのです。新原市長は呉市民の意向を聞くことなく、整備案を進めていたのです。

防衛省の説明から1ヶ月後、新原市長は中国新聞のインタビューに、「戦後、呉に拠点を置いた海上自衛隊が日本の独立と安全を守ってきた。その誇りが呉市民に、そして私にも強くある。跡地活用として、市民が誇りに思える場所となるのが大切である」と答えました。

1945年、軍港市であった呉は14回も空襲にさらされ、焼け野原となり、戦後は海軍と海軍工廠がなくなり「失業のまち」となりました。復興のために当時の鈴木市長は、横須賀、佐世保、舞鶴の各市に呼びかけ、旧軍港市転換法(軍転法)の制定を求めて奔走し、1950年6月の住民投票で、市民の95・8%の支持を得て軍転法は成立しました。

「呉市長は呉市民の協力により平和産業港湾都市の完成に向けて、不断の活動をしなければならない」という軍転法の理念を、ないがしろにしてはなりません。

私たち呉市民は新原市長に対し、日鉄跡地の利活用について、市民への説明会と意見交換会を求める署名活動を進めていきます。

岸田首相はこの度の訪米で、防衛予算を2027年までにGDP2%、4.3兆円とすることを約束。敵基地攻撃能力の保有をアピールし、自衛隊と在日米軍の指揮・統制機能の見直しにまで踏み込みました。日米同盟をさらに危険な段階に引き上げ、台湾有事を想定した日米共同作戦計画を着々と整備しています。

首相は訪米中に、日鉄呉跡地整備案について「攻撃に対する抑止力・対象力を高めるもの」との考えを示し「日鉄の協力を得て年内にも機能配置案をまとめ、地元自治体に示す」と中国新聞に文書で回答しました。一方、有事の際に「攻撃される拠点になる」との住民の懸念には、一切答えていません。国民主権をあまりにも軽んじており、とうてい許すことはできません。

「ネバーギブアップ」…これは音戸町出身で被爆者運動の先頭に立ち続けた坪井直さんの言葉です。南西諸島で進められる戦力配置と住民の闘いを描いた映画「戦雲」の三上知恵監督は言います。「いったん土地を渡せば、どんな施設が造られても地元は文句を言えなくなる。情報は隠され、検証も難しい」と。

そうなる前に、今、声を上げましょう。踏まれても踏まれても、たくましい芽を出す麦のように、子どもたちの未来のために「平和の準備」を続けていきましょう。ネバーギブアップ!

2024年4月21日 日鉄呉跡地問題を考える市民県民集会 参加者一同

【県議団控室】〒753-8501 山口市滝町1-1
TEL…083(933)4250 fax…083(933)4259

【下関事務所】〒750-0008 下関市田中町6-23
TEL…083(223)9414 fax…083(223)5215